



木村 聖子 議員 … 2件の一般質問

小学校適正配置、 統合に関わらず適正な教育環境を

教育長：まちづくり計画を見据えて慎重に見極めていきたい

木村

①現状のクラス編成が長く続くことは、教育委員会が考える1クラス30人程度、1学校12学級以上が適正であるという教育環境に遅れをとることに、さらには教員に負担がしわ寄せされるのでは。また統合にかかわらず、教育環境の整備をできることから前進させてはどうか。

②統合の時期を早めに町民に示すべきでは。

教育長

①今、町費で教員を任用し少人数学級を実施するには、財政面で実現が難しいため、学習支援員を増員するなど、子どもたちへのきめ細かな指導の実施と、教員の負担の軽減に努めている。

②目標としている統合の時期は、現在取り進めているさまざまなまちづくり計画の状況を見据えながら実施計画の策定を進め、それらの進捗状況を見ながら慎重に見極めていきたい。

木村

現状の建物面積ではハード面でも大きなハードルがあると認識しているが、教員の分掌範囲が広がったことで負担が増え、さらに児童へ目が行き届きにくくなるので、少人数学級で進めていくメリットは大きいと考える。

統合については、既存にとらわれず新しい学校配置を考えることも含め、実施計画の中で十分に煮詰めてもらいたい。

実施計画は2、3年かかるということだが、住民への周知、さらに基本設計や実施設計に移ると、統合まで8年ぐらいかかると見込まれる。その間、適正な教育環境が放置されないよう、教育環境の解消改善の道を探るようしてもらいたい。

教育長

できるだけ早い時期に子どもたちのため、教職員のためにも望ましい教育環境の整備を進めていきたい。

子育ての切れ目ない支援を

木村

①保育所や放課後児童クラブは、連動性のある施策を打ち出すべきと考えるが、見解は。

②平成30年、3歳以上の保育所の既存児童は、漏れなく預かってもらえるのか。

③放課後児童クラブの受け入れ拡大に向けてどう対応していくのか。

町長

①場所及び支援員が必要であるが、現時点においては難しい。

特に支援員は、すぐに確保するのは難しく、長期的に見据えて人材の育成や支援員登録も視野に入れて進めていく。各学校での場所確保の工夫や新たな場所設置などを調査していく。

②3歳以上の受け入れはそれぞれの定員において漏れなく受け入れられると考えているが、定員を超えた場合、ある程度の定員超過分の受け入れなど、弾力的な対応を幼稚園と協議したい。



空き教室を利用した放課後児童クラブ

木村

放課後児童クラブのスペースの問題は、町長、執行部で強力に進めなければ、解消には結びつきづらい。トッパダウンで考えを示すべきでは。

保育所の3歳以上の受け入れについて、保護者に混乱がないように周知徹底や問題を解消していく必要がある。

町長

放課後児童クラブについて、学校の敷地に建物を、一時的にプレハブなどを置いてでも対応するべきと考えている。

今後、教育委員会と詰めるながら、できることは早く取り組みをしていきたい。

2点目の3歳以上の児童受入れについて、保護者に不安がないように対応していきたい。また、手続等については幼稚園と協議をしていく。

教育長

③放課後児童クラブの受け入れ拡大については、学校現場では、多様化する指導に対応するため必要となるスペースが増大し、現時点では、各学校における余裕教室はない実情にある。

現状で見られる課題等に対応するため福祉医療課や学校現場と協議を重ね知恵を絞って取り組んでいきたい。